

◇「札幌の成果と課題」を踏まえ、以下の三点を重視して学校での学びを改善していく必要がある。
○子どもが、**学ぶことの意義や楽しさ**を感じ取り、**自ら学び続けようとする意欲**をもつこと
○子どもが、自ら考えたり表現したりするなどの**多様な学びを経験し、身に付けること**
○子どもが、学び続けるための**基礎的・基本的な知識や技能**を身に付け、**新たな学びに自信をもって挑戦**していけるようになること

◇学校での学びの質を高め、家庭とも一体となって「学ぶ力」をはぐくむことを目指して「さっぽろっ子「学ぶ力」の育成プラン」を実施していく。

平成27年度 さっぽろっ子「学ぶ力」の育成プラン

「札幌市教育振興基本計画」(H26年度～)に位置付けて推進



◆分かる・できる・楽しい「授業づくり」の充実

「子どもが自ら考え、判断し、表現する学習活動」の充実

○**体験的な活動**や**言語活動**、**問題解決的な学習活動**等を取り入れた授業の工夫改善を図る。

学ぶ意欲の向上

「自分への自信をもたせるきめ細かい指導」の充実

○児童生徒の実態に応じて、基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図り、子どもが分かる・できる喜びを実感できるよう、**個に応じた指導の充実**を図る。

5つのポイント

- 1 難しいことにも挑戦する意欲を伸ばします。
- 2 「自ら学ぶ方法」と「人と学び合う方法」を身に付けられるようにします。
- 3 意味理解を伴った知識の習得と、知識を使いこなす力を伸ばします。
- 4 自分の「伸び」を実感して、新たな目標をもてるようにします。
- 5 生活を自らコントロールする力を育みます。

各学校が「学ぶ力」の育成プログラムを改訂し実行

○各学校が、自校の児童生徒の「学ぶ力」の実現状況を踏まえて、指導方法等の課題を明確化し、**改善に向けて作成したプログラムの改訂、実行**に取り組む。(教育課程等への位置付け、指導方法の改善など)

教員の指導力向上に向けた施策

具体的な改善策について教育委員会が支援

<p>札幌市教育センター研修事業</p> <p>○授業づくりに関する研修の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実効性の高い研修の充実 ・指導資料等の積極的な活用 	<p>札幌市教育研究推進事業</p> <p>○「分かる・できる・楽しい授業」に関する研究の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の協働による授業づくりに関する実践的研究の推進 ・研究・研修の成果の発信 	<p>教育課程研究協議会・説明会等</p> <p>○「分かる・できる・楽しい授業」の在り方を協議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例の共有 ・研究開発事業の成果発信等 	<p>札幌市研究開発事業</p> <p>○指導方法等のモデル事例開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究推進校によるモデル事例の開発 ・モデル事例の共有と活用
--	--	---	---

◆学校、家庭が一体となった「習慣づくり」「環境づくり」の推進

情報発信の充実

○**家庭、地域への情報発信を充実**

※家庭や地域との共通理解のもとで「学ぶ力」の育成に向けた取組を推進

- ・「札幌市教育フォーラム」の開催(H25.10.29/H26.2.26)
- ・さっぽろっ子「学ぶ力」の育成プランリーフレット作成・配布
- ・札幌市PTA協議会との連携
- ・広報活動の充実・工夫

「学ぶ力」の育成推進協議会

○「学ぶ力」の育成に向けた**取組について意見交換**

※会議メンバー：保護者代表、大学教授、校長、教員等

- ・学校、家庭が一体となって、子どもへ働きかける
- ・**さっぽろっ子「学びの習慣10項目(仮)」**を検討し提案、家庭向け「**家庭学習のススメ(仮)**」の提案など
- ・家庭での読書習慣づくりの促進と朝読書の充実
- ・ICTの活用、学生ボランティアの活用などの環境整備

校長会との連携強化

○**双方向**による「学ぶ力」の育成

※校長会との多様な機会における双方向の連携を強化

- ・「学ぶ力」の育成に向けた協議
- ・校長会への情報提供、啓発、助言
- ・さっぽろっ子「学ぶ力」の育成プランリーフレットの検討
- ・各学校の研修会等の充実

子どもの自己評価を生かした「学ぶ力」の評価と指導の改善 ～20の指標～

○教育施策や教育指導の改善に反映するため、**札幌市全体の共通指標を設定し、子どもの学習状況等を把握するとともに、分析する。** ※各種調査結果+子どもの自己評価

①授業中、自分で疑問やめあてをもって学習に取り組もうとしている。②分からないことは、自分で調べてはつきりさせようとしている。③勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがよくある。④意見の違う人とも、よく話し合おうとしている。⑤今の自分にとって、どのように勉強するのがよいか分かっている。⑥勉強で同じ間違いをくり返さないように気をつけている。⑦新しく習ったことは、くり返し練習をしている。⑧普段から、計画を立てて勉強している。⑨分からないことは、そのままにせず、分かるまで努力するようにしている。⑩意見を書くときには、その理由をはつきりさせて書くようにしている。⑪意見を発言する前に、自分の考えがうまく伝わるように、話の内容や順序を考えている。⑫授業中、自分の意見を進んで発言している。⑬授業中、友達や先生の説明、意見を終わりで聞いている。⑭人の意見を聞いて、それを参考にして自分の考えを見直すことがよくある。⑮習ったことや知っていることを使って、自分で考えることが大事だと思う。⑯学校で好きな授業がある。⑰授業中に分からないことがあったときに、友達や先生に聞くようにしている。⑱困ったとき、悩みがあるときは、人に相談するようにしている。⑲外国の人と交流する機会をもちたいと思う。(話をしたり、一緒に何かの活動をしたりするなど)⑳札幌には、好きな場所やものがある。(自然、建物、イベント、歴史、文化など)

改善

検証改善

検証改善サイクルの確立

評価

子どもの学力の現状と「札幌の成果と課題」

国際的な学力調査から明らかとなっている日本の子どもの学力状況も踏まえつつ、全国学力・学習状況調査結果や札幌市学習実現状況調査等の各種調査結果を総合的に分析し、札幌市の子どもの「学ぶ力」について、「**札幌の成果と課題**」をまとめました。

■国際比較による日本の子どもの学力■

TIMSS
国際数学・理科
教育動向調査

小4、中2が対象
算数・数学、理科の
知識・技能の習得状況

2011年調査 小学校・算5位、理4位(50か国中)
中学校・数5位、理4位(42か国中)

「習熟度の高い児童生徒の割合は、前回調査に比べ増加しているが、他の上位国・地域と比べると、その割合は低くなっている。」

「学習に対する意欲等について、前回調査に比べ肯定的な回答をした児童生徒の割合は増加。国際平均よりも低い。」

(文部科学省資料より抜粋)

PISA
OECD生徒の
学習到達度調査

15歳が対象。義務教育
修了段階で身に付けた知識
や技能を実生活の様々な課
題にどの程度活用できるか。

- 数学的リテラシー
数学的根拠に基づいた判断・能力
- 科学的リテラシー
科学的知識を活用し、課題を明確にして結論を導き出す能力
- 読解力
テキストを理解、利用し、考える力

・習熟度レベル1～4(低～高)で見ると、前回調査(2006年)と比べてレベル2以下の生徒の割合が減少し、レベル4以上の生徒の割合が増加。
・トップレベルの国々と比べると、成績下位層が多い。

数学的リテラシー
2009年 9位(65か国・地域中) 2012年 7位(65か国・地域中)
科学的リテラシー
2009年 5位(65か国・地域中) 2012年 4位(65か国・地域中)
読解力
2009年 8位(65か国・地域中) 2012年 4位(65か国・地域中)

「必要な情報を見付け出し取り出すことは得意だが、それらの関係性を理解して解釈したり、自らの知識や経験と結び付けたりすることがやや苦手。」
(文部科学省資料より抜粋)

■札幌の子どもの学力■

平成26年度全国学力・学習状況調査

小6、中3が対象(H26年4月実施)
国語、算数・数学の
「知識に関する問題(A問題)」
「活用に関する問題(B問題)」

札幌市学習実現状況調査

小5、中2が対象(H24年2月実施)
社会・理科・英語の知識・理解について「基礎に関する」と「応用に関する問題」

【小学校】 ⇒国語、算数の問題A、Bいずれも、
全国平均正答率と「ほぼ同程度」
【中学校】 ⇒国語、数学の問題A、Bいずれも、
全国平均正答率と「ほぼ同程度」
※「ほぼ同程度」は、全国の平均正答率と比較して±3.1ポイントの範囲内。

⇒小中学校ともに、
期待される正答率(設定通過率)と同程度

- ◆ **知識・技能の定着**については、小学校国語(漢字を正しく書くことなど)、算数(四則の混合した計算や異分母の分数の計算など)に**継続的な課題**。(一部の問題で、全国平均正答率を下回る状況)
- ◆ **「活用」**に関しては、中学校で全国平均正答率を上回る問題が見られている。一方、「**伝えたい事柄や根拠を明確にして、自分の考えを書くこと**」や「**事柄の特徴を的確に捉え、適切な表現で説明すること**」などの問題で、全国と同様に誤答率・無解答率が高い状況が見られ、**小・中学校ともに課題**。

※「下回る」は、全国の平均正答率と比較して3.1ポイント以上、下回る状況。
※「上回る」は、全国の平均正答率と比較して3.1ポイント以上、上回る状況。

■札幌の子どもの学習習慣と学習意欲■

平成26年度全国学力・学習状況調査

■ **読書が好き**な子どもの割合が小・中学校ともに増加し、**全国平均より高い状況**。※()内は全国平均

H19年度:小72.0%(71.3%) 中66.5%(67.9%)
H26年度:小75.9%(73.0%) 中74.9%(69.4%)

■ **将来の夢や目標をもっている**子どもの割合が**増加しているが、全国平均より低い状況**。※()内は全国平均

H19年度:小81.5%(83.7%) 中69.2%(70.7%)
H26年度:小84.6%(86.7%) 中70.0%(71.4%)

■ **難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している**子どもの割合が小・中学校ともに増加しているが、**全国平均より低い状況**。※()内は全国平均

H19年度:小69.8%(72.3%) 中62.7%(62.0%)
H26年度:小71.4%(75.1%) 中66.4%(68.0%)

札幌市児童生徒の実態に関する基礎調査

■ H26年度の調査では、家庭での学習時間は、小・中学校ともに、「ほとんどしない」と回答した割合が過去調査(H23年度)に比べ減少しているが、「15分以内」「ほとんどしない」と回答している子どもの割合が小学生(小5)15.7%、中学生(中2)26.7%となっている。

◆ **家庭での学習習慣や、学習意欲についての課題が見られる。**

★札幌の成果と課題★

- 読書への意欲向上に成果。一方、学習習慣の確立や、自ら学ぼうとする学習意欲の向上に課題。
- 思考力・判断力・表現力等に、問題解決的な学習等の成果も見られるが、知識・技能ほど十分に身に付いているとは言えない。
- 知識・技能は、概ね身に付いているが、**小学校の教科領域の一部に継続的な課題も見られる。**

「学ぶ力」の育成に向けた取組...「5つのポイント」の背景

平成26年度に実施した以下の調査の結果や研究実践の成果等を踏まえて、「学ぶ力」の育成に向けた取組で大切にしたい「5つのポイント」を設定しました。

参考2

◆平成26年度全国学力・学習状況調査の結果

教科に関する調査結果から

【小学校】

国語、算数の問題A、Bいずれも、全国平均正答率と「ほぼ同程度」

【中学校】

国語、数学の問題A、Bいずれも、全国平均正答率と「ほぼ同程度」

※問題A...主として「知識」に関する問題、問題B...主として「活用」に関する問題
※「ほぼ同程度」は、全国平均正答率と比較して±3ポイントの範囲内。

◆**知識・技能の定着**については、小学校国語(漢字を正しく書くことなど)、算数(四則の混合した計算や、異分母の分数の計算など)に**継続的な課題**。(一部の問題で、全国平均正答率を下回る状況)

◆**「活用」**に関しては、**中学校で全国平均正答率を上回る問題**が見られる。一方、「**伝えたい事柄や根拠を明確にして、自分の考えを書くこと**」や「**事柄の特徴を的確に捉え、適切な表現で説明すること**」などの問題で、全国と同様に**誤答率・無解答率が高い状況**が見られ、**小・中学校ともに課題**。

※「下回る」は、全国平均正答率と比較して3.1ポイント以上、下回る状況。
※「上回る」は、全国平均正答率と比較して3.1ポイント以上、上回る状況。

児童生徒に対する質問紙調査結果から

■**読書が好き**な子どもの割合は、平成19年度に比べ増加し、全国平均より高い状況。

H19年度:小72.0%(71.3%) 中66.5%(67.9%)

H25年度:小74.5%(72.1%) 中76.3%(70.1%)

H26年度:小75.9%(73.0%) 中74.9%(69.4%)

■**難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している**子どもの割合は、平成19年度に比べ増加しているが、全国平均より低い状況。

H19年度:小69.8%(72.3%) 中62.7%(62.0%)

H25年度:小71.2%(75.0%) 中65.7%(66.8%)

H26年度:小71.4%(75.1%) 中66.4%(68.0%)

■**将来の夢や目標をもっている**子どもの割合は、平成19年度に比べ増加しているが、全国平均より低い状況。

H19年度:小81.5%(83.7%) 中69.2%(70.7%)

H25年度:小85.7%(87.7%) 中71.5%(73.5%)

H26年度:小84.6%(86.7%) 中70.0%(71.4%) ※()内は全国平均

◆学習などについてのアンケート～札幌市全体の共通指標～の結果

質 問	肯定的な回答の割合			
	小学校		中学校	
	平成25年度	平成26年度	平成25年度	平成26年度
1 授業中、自分で疑問やめあてをもって学習に取り組もうとしている。	77.3%	76.5%	61.6%	63.9%
2 分からないことは、自分で調べてはつきりさせようとしている。	73.5%	73.5%	67.2%	69.5%
3 勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがよくある。	84.6%	84.6%	62.4%	64.0%
4 意見の違う人とも、よく話し合おうとしている。	67.7%	67.5%	57.1%	58.8%
5 今の自分にとって、どのように勉強するのがよいか分かっている。	76.5%	75.6%	59.3%	60.5%
6 勉強で同じ間違いをくり返さないように気をつけている。	86.6%	87.1%	79.5%	81.3%
7 新しく習ったことは、くり返し練習をしている。	64.9%	63.1%	46.0%	47.6%
8 普段から、計画を立てて勉強している。	55.8%	54.7%	30.1%	32.5%
9 分からないことは、そのままにせず、分かるまで努力するようにしている。	75.1%	74.3%	64.1%	65.9%
10 意見を書くときには、その理由をはつきりさせて書くようにしている。	73.5%	73.2%	62.9%	65.9%
11 意見を発言する前に、自分の考えがうまく伝わるように、話の内容や順序を考えている。	68.6%	68.6%	61.0%	63.0%
12 授業中、自分の意見を進んで発言している。	56.2%	54.2%	35.6%	36.8%
13 授業中、友達や先生の説明、意見を終わりまで聞いている。	84.8%	85.7%	81.3%	82.7%
14 人の意見を聞いて、それを参考にして自分の考えを見直すことがよくある。	80.7%	81.2%	75.9%	78.3%
15 習ったことや知っていることを使って、自分で考えることが大事だと思う。	88.6%	88.3%	85.8%	86.6%
16 学校で好きな授業がある。	96.2%	95.9%	87.7%	86.6%
17 授業中に分からないことがあったときに、友達や先生に聞くようにしている。	82.2%	81.0%	74.0%	74.7%
18 困ったとき、悩みがあるときは、人に相談するようにしている。	73.5%	72.9%	66.4%	66.8%
19 外国の人と交流する機会をもちたいと思う。(話をしたり、一緒に何かの活動をしたりするなど)	80.7%	78.5%	62.6%	62.4%
20 札幌には、好きな場所やものがある。(自然、建物、イベント、歴史、文化など)	90.8%	89.4%	84.3%	83.7%

◆平成26年度札幌市研究開発事業「さっぽろっ子「学ぶ力」の育成プラン」研究推進校の実践例

A: 分かる・できる・楽しい「授業づくり」のために

◆授業研究の日常化、家庭の教育力を生かした学習習慣づくり、6年間の学びの積み上げ、上学年へのあこがれをもたせる工夫

B: 学校、家庭が一体となった「習慣づくり」「環境づくり」のために

◆家庭学習の意義(よさ)と方法を啓発、6年間で積み上げる学習習慣を明確化、ノート指導と評価で自信を育む

◆「学習記録」を通して学習習慣づくりを支援、教育相談を生かした学習サポート

C: 「学ぶ力」育成プログラムの改善のために(PCDAサイクルの確立)

◆授業改善による学力向上、短期間での評価の工夫 など

◆平成26年度「学ぶ力」の育成推進協議会での意見

- 「学ぶ力」とは、人間としての生きる力
- 行動や生活をコントロールできる力を育成
- 問題解決のための見方や考え方も含めていく必要がある
- 考えていく方法や考える力などは、教師が学年の発達に合わせて具体化
- 子ども自身が「学ぶ力」の必要性を理解しながら学ぶ
- 内発的動機付けが大切
- 子どもが自己肯定感を高めるための自己評価
- 以前に比べてどんな伸びがあったのかを重視した評価も大切
- 校種、発達の段階に対応した指導方法の工夫
- 子どもがつまずくような点を想定する力を磨く
- 学校、教科、学年の枠を超えた研修を

